

話題の広場

みんな桜の下で

鹿沼市立菊沢西小学校
石川 広己

本校の位置する鹿沼市見野地区は『とちぎの田園風景百選』に選ばれるなど、豊かな自然に囲まれている。学校は「尖り帽子の時計台と緑の屋根の白い校舎」として地域に親しまれている。

「いきいき かがやく菊西の子」をスローガンとして、地域の人々や自然にふれあい、ふるさとの歴史や生活を知り、地域にある福祉施設や介護施設等の交流体験を通して学ぶ、「ふるさとふれあい学習」を通して、児童一人一人の良さを育てる教育、児童一人一人が主役となる教育活動に取り組んでいる。

今から約二十年前に校舎の新築とともに校庭の整備

が行われることになった。その時、校庭にある桜の老木を守ろうとして、地域の方々やPTAが協力して移植に取り組んだ。

その桜は毎年四月には満開の花をつけ、新入生を迎えてくれるとともに、在校生の児童の集合写真もこの桜の木の下で撮影することが毎年恒例となつてい

運営拠出金

委員会だより

運営拠出金
委員長 羽石 敏彦

運営拠出金は、県小学校長会の主体的活動の充実強化を図るための基金として、教育機関との交渉・連絡、福利厚生、研修、緊急事態への対応として運用されております。

一昨年は、関プロ栃木大会、東日本大震災の見舞金と大きな支出があり、今後は次の大きな支出に備えて、毎年少しずつ蓄

えていくことが必要となつていきます。

しかしながら本会は、新会員の皆様からの拠出金のみで運営しておりますので、現在の予算書の支出のままで基金造成が困難な状況になつてきております。

つきましては、各地区への補助金を昨年度より段階的に減額せざるを得ない状況となつております。会員の皆様には現状をご理解いただき、少ない補助額となりますが、各地区教育の進展にご活用くださるようお願い申し上げます。

県小学校長会

事務局だより

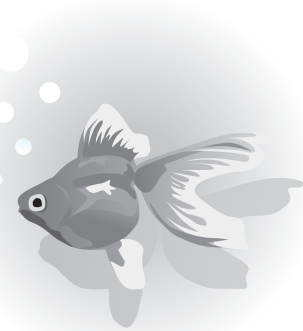
事務局長 佐々木和美

先日総会では、平成二十五年度の活動の方向が定まり、小学校長会の活動がスタートしました。

懸案だったHPが三月に立ち上がり、今年度は、

各地区や各市町での情報交換ができるように作り上げていきます。今は、地区のHP運用担当者も決まり、研修会を開催するところです。

今後、どのように利用していくか皆様からのご意見を地区の広報部の方を通してお寄せください。今年度の大きな大会は、関プロが山梨大会、全連小が三重大会です。関プロ山梨大会では、南那須地区からの提案があります。さて、事務局は、今年度も引き続き、事務局長が佐々木、事務局員が高柳で、今まで同様皆様の活動を全力で支えていきます。宜しくお願いいたします。



編集後記

今年は例年になく桜の開花や梅雨入りが早く驚かされます。

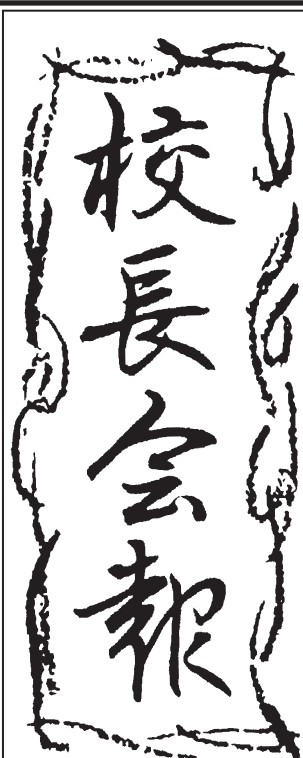
四月には中央教育審議会から第二期教育振興基本計画についての答申がなされました。また、一月から開催されている教育再生実行会議では様々な提言が出されています。

そのような中、平成二十五年度校長会も「新しい知を創造し豊かな心をもつた子どもの育成を目指す学校経営の推進」を基本目標に新役員さんを中心に活動が始まりました。

子どもが輝く創造と活力に満ちた信頼される学校づくりに努めていくことがより一層求められています。

お忙しい中本号へ玉稿をお寄せいただきました会員の皆様にご心より感謝申し上げます。

佐野小学校
猿橋 誠



第 129 号

発行所
宇都宮市城東小学校
栃木県小学校長会事務局
発行責任者
村上 雅之
印刷所
印刷会社 宮本印刷株式会社

本年度の小学校長会の取組

栃木県小学校長会会長

村上 雅之



冒頭から本校の教員のエピソードで恐縮です。運動会の練習時のことです。低学年の子が、挨拶の代表に選ばれ、マイクで決められたセリフを言うこととなっていました。全体練習の際に、その子の出番になりましたが、何かトラブルがあったらしく、涙を流してセリフを言えずにいました。その時担任が、

「今は、自分の役割を果たしなさい。何があつたかは、役割を果たしてからじっくり聞きます。」ときっぱり言いました。その子は何とか役割を果たしました。担任も約束通りきちんと話を聞き、その子が涙を流した原因を解消してくれました。私は、この教員の指導の仕方、つまり、今何をすべきかを分からせた上で、信頼関係を築く指導の方法を支持しました。

今、いじめ、体罰等の問題が学校を取り巻く喫緊の課題となつています。その解決には、児童や保護者との揺るぎない信頼関係が構築できる教員づくりが必要だと思ひます。

そのためには、校長会として、教育委員会とは違うアプローチでこの問題に取り組んでいけたらと思ひます。今年度の校長会の第一の取組として、様々な問題の未然防止について、現場の教員がどのように向き合っていくのかを、提案していきたいと思ひます。

第二に、教員の学習指導力向上に向けた取組について検討していききたいと思ひます。これからの「知」の世紀においては、情報通信技術の進展等による教育環境の大きな変化も十分に生かしつつ、基礎・基本を習得し、それを基に探究心、発想力や創造力、課題解決能力等を伸ばし、新たな「知」の創造と活用を通じて、社会や人類の将来の発展に貢献する人材の育成を図らなければなりません。そうした人材を育成できる教員の指導力を高めていきたいと考えております。

第三に、教育諸条件の整備・充実に対する考え方を強化していくことです。具体的には、小学校三年生以上の三十五人学級の実現です。昨年度は県教委、市町教委との懇談を通じて実現を要望しましたが、国が財政措置を行わなかったことにより実現しませんでした。残念な思いでいっぱいですが、二十五年度は、学校支援非常勤講師の増員も含めて、実現に向けて努力をするべき課題ととらえ取組みます。さらに、新たに立ち上げた小学校長会のホームページを、情報交換のツールとして活用出来るようにし、組織として校長会が機能するようにしたいと思ひます。

最後に、一人一人の校長が自主性、自律性を持ち、特色ある学校経営に邁進することができるよう、微力ながら校長会の運営に精一杯努力してまいります。ご協力をお願いいたします。

第六十六回 栃木県小学校長会総会

平成二十五年度県小学校長会が五月十六日に県教育会館で、県教委教育長の古澤利通様をはじめ多くのご来賓をお招きして開催されました。

村上雅之会長は挨拶の中で、「県校長会が取り組むべき課題として、信頼関係を基軸とした体罰いじめ問題の解消と三十五人学級の実現等の教育環境の整備があげられる。県内の各校長先生がなお一層主体性を持って特色ある学校づくりに邁進されることを期待する。」と述べられました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。

研修会では、文芸芸術大学講師（元宇都宮大学教育学部長）の中村清先生から「これからの日本の教育」と題して講演があり、特に現職教員への提言として多くの示唆に富んだお話を聞くことができました。